

# それぞれのテーマに 有用な企業資料等の集成

長尾文庫から蒐集した稀少な資料を編集

佐々木 淳



▼鈴木商店関係会社の関連資料や、企業関係者の伝記資料

二〇一二年から足掛け五年にわたって刊行してきた『明解企業史研究資料集』全10巻(クロスカルチャー出版)の編集を九月に終えたところである。この資料集は、旧外地企業編(第1回配本 全4巻)、総合商社鈴木商店関係会社編(第2回配本 全3巻)、繊維産業編(第3回配本 全3巻)の三編から成っており、いずれも基本的には龍谷大学深草図書館(京都府京都市伏見区)の長尾文庫から蒐集した稀少な資料を編集したものである。龍谷大学の長尾文庫は、日本で有数の企業資料コレクションのひとつとして知られ、会社史だけでなく同業組合等の団体史、企業史(一九三九年・台湾電

佐々木 淳 編集・解題

## ▶明解企業史研究資料集

第1回配本 旧外地企業編 全4巻  
第2回配本 総合商社鈴木商店関係会社編 全3巻  
第3回配本 繊維産業編 全3巻  
各B5判 ①約3300頁 揃本体150000円 ②約2700頁 同130000円 ③約2500頁 同130000円  
クロスカルチャー出版

『明解企業史研究資料集』全10巻(クロスカルチャー出版)編集・解題を終えて

業等の事業概要・定款・営業報告書・広告資料、調査機関等による特定の企業や業界の分析、企業関係者の伝記など日本経営史・経済史研究において資料の価値の極めて高い歴史資料が豊富に収められている。本資料集は、このような長尾文庫の特徴をふんだんに生かし、単に社史だけを並べて復刻するのではなく、それぞれのテーマに有用な企業資料等の集成を目指したものである。

各編の復刻資料を紹介するのと、次のようになる。

旧外地企業編(全4巻) 第1巻「台湾」(四〇点) 伊藤重郎編『台湾製糖株式会社史』(一九三九年・台湾電力株式会社企画部編『社業現況』(一九三八年・台湾拓殖株式会社文書課編『事業概観』(一九四〇年・台湾銀行調査課『台湾に於ける金融機関』(一九三九年・第2巻「朝鮮」(三〇点) 日本田秀夫編『朝鮮産産銀行二十年志』(一九三八年)・朝鮮金融組合連合会編『朝鮮金融組合の現勢』(一九三七年)・第3巻「満洲国」(二〇点) 昭製鋼所 銑鉄部編『昭製鋼所廿年誌』(一九四〇年)・日満倉庫株式会社編『日満倉庫株式会社十年略史』(一九四〇年)・第4巻「満洲国・中国関内・南洋群島」(四〇点) 満洲興業銀行普通金融第一課信用調査係編『特殊会社並二準特殊会社調査』(一九四一年)・中国連合準備銀行顧問室編『中国連合準備銀行五年史』(一九四四年)・中支那振興株式会社『中支那振興会社並関係会社事業概況』(一九四〇年)・南洋拓殖工業株式会社『南洋拓殖工業株式会社設立趣意書並二事業上企業地ノ説明』(出版年不詳「一九一七年頃」)。

総合商社鈴木商店関係会社編(全3巻) 第5巻(三〇点) 神鋼タイムス編集室編『株式会社神戸製鋼所創立70周年記念講演(桂芳男講演)鈴木商店と金子直古の人間像』(一九八四年)・柳田義一

力株式会社企画部編『社業現況』(一九三八年)・台湾拓殖株式会社文書課編『事業概観』(一九四〇年)・台湾銀行調査課『台湾に於ける金融機関』(一九三九年)・第2巻「朝鮮」(三〇点) 日本田秀夫編『朝鮮産産銀行二十年志』(一九三八年)・朝鮮金融組合連合会編『朝鮮金融組合の現勢』(一九三七年)・第3巻「満洲国」(二〇点) 昭製鋼所 銑鉄部編『昭製鋼所廿年誌』(一九四〇年)・日満倉庫株式会社編『日満倉庫株式会社十年略史』(一九四〇年)・第4巻「満洲国・中国関内・南洋群島」(四〇点) 満洲興業銀行普通金融第一課信用調査係編『特殊会社並二準特殊会社調査』(一九四一年)・中国連合準備銀行顧問室編『中国連合準備銀行五年史』(一九四四年)・中支那振興株式会社『中支那振興会社並関係会社事業概況』(一九四〇年)・南洋拓殖工業株式会社『南洋拓殖工業株式会社設立趣意書並二事業上企業地ノ説明』(出版年不詳「一九一七年頃」)。

総合商社鈴木商店関係会社編(全3巻) 第5巻(三〇点) 神鋼タイムス編集室編『株式会社神戸製鋼所創立70周年記念講演(桂芳男講演)鈴木商店と金子直古の人間像』(一九八四年)・柳田義一

編『金子直古遺芳集』(一九二八年)を分載、第10巻(四〇点) 東京信用交換所 京都支局編『京都織物問屋総覧』(一九三三年)・東京信用交換所編『東京織物問屋総覧』(一九二九年)・原道之「満洲に於ける綿洋服及服地(調査第十七輯)」(一九三八年)・八木朝久編『平壤のメリヤス工業と平南の農村機業(調査資料第二十一輯)』(一九四三年)。

こうして、配本順に並べてみると、自分の講義(近代日本経済史)、ゼミ(財閥史・商社史)、研究(産地綿織物業史)の順に、それぞれの内容に関連する分野に編集集を絞っていることが、あらためて実感できて興味深い。最近になって、これまで三井物産などと比べると比較的手薄だと言われた第2回配本の解題で書いた鈴木商店に関する本格的な歴史研究が相次いで公開されており(齋藤尚文『鈴木商店と台湾—樟脳・砂糖をめぐる人と事業』晃洋書房、二〇一七年三月、武田晴人『鈴木商店の経営破綻—横浜正金銀行から見た一側面』日本経済評論社、二〇一七年九月)、本資料集(第2回配本)が、今後の鈴木商店研究の発展に多少なりとも貢献できれば望外の幸である。

(龍谷大学教授)